別紙

(仮称) 小柴貯油施設跡地公園整備計画 方法書に対する意見書の概要及び事業者の見解

> 平成 27 年 3 月 27 日 横浜市

1 意見書の内容と意見数について

横浜市環境影響評価条例に基づき、「(仮称) 小柴貯油施設跡地公園整備計画環境影響評価方法書」に対し、4通の意見書(延べ意見数 14 件)が提出されました。意見書の内容と意見数は、表1に示す通りです。

表 1 意見書の内容と意見数

意見項目		意	見数	
事業計画		3件		
環境影響評価項目	生物多様性	6件	11件	
	騒音	1件		
	安全	4件		
合計		14件 (4通	i)	

2 意見書の概要と事業者の見解

2 意見書の概要と事業者の見解					
項目	意見書の概要	事業者の見解			
	この公園は無駄で環境にもよくないと思う。	旧小柴貯油施設跡地を中心とした土地に			
	近くには長浜公園、海の公園、八景島、富岡	ついては、横浜市水と緑の基本計画におけ			
	総合公園、富岡八幡公園、立派な公園がたくさ	る緑の 10 大拠点 (小柴・富岡地区) に位置			
	んあるのに、これに加えてこんな広い場所に税	付けられていることから、旧海岸線沿いの			
	金を投じ(10億円以上?)わざわざ公園にす	緑や自然環境を活かしつつ、市民が憩い、			
	る必要があるのか。	集い、楽しむとともに、みどりアップや生			
	公園などやめて広い森林に復元すればよい。	物多様性、地球環境の大切さを、市民が感			
	CO2やヒートアイランド防止に役立つ。今必	じ、学び、育てる緑の拠点として整備する			
	要なのは、石原都政の台場の森のような事業。	ものです。			
	植林管理すれば、30年で立派な森林になるし、	公園整備の方向性については、返還を受			
	管理で立ち入り禁止にしておくことで土壌除	けて跡地利用について検討を開始し、平成			
	染も不要。公園にすれば人が入り、除染が必要。	18年6月の米軍施設返還跡地利用指針で			
	結果、余計な費用が発生。(数億円?)	は、「森と海に抱かれた自然体験空間」とし、			
	昔の海岸線の崖も同じ。公園になり人が入る	貯油タンクの適切な処理とともに身近に自			
	ので崖工事が必要となる。これまた余計な費	然が体験できる豊かな緑の空間、広域の住			
	用。長浜公園の崖にはいくらかかったのか?	民が交流する空間の形成を目指すとしまし			
事	(数億円?)	た。			
事業計画	ここの崖の景色は、後世にそのまま自然を残	また、平成19年3月の横浜市米軍施設返			
	す価値があることをご存知か。	還跡地利用行動計画では、「都市公園の整備			
	皮肉なことに、米軍施設であったことが幸い	を目指す」とし、平成20年3月の小柴貯油			
	して手つかずの自然が残った。公園で人工化し	施設跡地利用基本計画では、公園のテーマ			
	ないか心配である。自然をたくさん残してほし	として、緑の保全と回復や環境行動の支援、			
	いが周りから見えない場所で、防犯も極めて心	自然エネルギーの導入などの公園整備の方			
	配で、結局余計な管理費用が日々発生。結局こ	向性をまとめました。			
	こでの公園実現は無理が多いと思う。	公園の基本計画は、以上の検討の結果を			
		踏まえ、市民の皆様の御意見を伺いながら			
		平成26年7月に策定したものです。			
		なお、公園整備にあたっては、既存の地			
		形や樹林地などを極力活かしながら、公園			
		利用に必要な最小限の範囲で造成を行うこ			
		ととしています。計画地内の旧海岸線の崖			
		地については、安全性を確認し、保全に努			
		めます。			
		防犯対策については、公園の管理方法を			
		含めて公園の設計を進める中で検討しま			
		す。			

	- 201	14は番鱼会用に作成したものです。番鱼の適程で変更され	
		センター広場内の管理センターなど、利用者	管理センターの施設内容や運営方法など
		のための休憩所を作ってほしい。また、環境、	の詳細については、今後検討を進めます。
事業計画		里山、農業など学習できる場として関連する書	里山農体験ゾーンについては、樹林地の
		籍を置いた図書スペース、学習スペースがあっ	保全、里地里山空間の再生を行うと共に、
		たらよいのではないか。	様々な農業体験ができる施設の整備につい
		里山農体験ゾーン内の一部を市民が有料で	て今後検討します。
		使用できるレンタル農園を作ってほしい。	
		夜間、公園内に不審者や若者たちが侵入でき	開園時間の設定や安全対策などの公園の
		ないように、公園全体を囲い、夕方定時には門	管理方法については、公園の設計を進める
		を閉め、立ち入り禁止にしてほしい。	中で検討します。
		(できれば防犯カメラなど設置)	
		以前は雉、小綬鶏をよく見かけたのに最近は	公園整備にあたっては、既存の地形や樹
		全く見掛けられない。雉は計画の草地広場ゾー	林地などを極力活かしながら、施設整備や
		ンに5回ぐらいきれいな雄が姿を見せていた。	タンク処理、バリアフリー動線の確保など、
		小綬鶏は親子でヨチヨチ歩く姿が愛らしく堀	公園利用に必要な最小限の範囲で造成を行
		口から長浜の森に生息していた。このような自	います。
		然の回復するような公園化するよう望む。	称名寺・円海山などへと連なる「つなが
		長浜地区には平家蛍が生息していた時期も	りの森」や金沢の旧海岸線に連なる公園緑
		ありましたが下水道整備や宅地開発で失われ	地など、周辺の緑と連携し、樹林地の保全
		たので公園内には湧き水が沸いているところ	や緑化に努めるとともに、敷地内の生物の
		もありますので整備をお願いします。	生息・生育環境の保全・再生・創出するな
		カブトムシ、クワガタムシ・カミキリムシが	ど、生物多様性に配慮した計画とします。
	生物	いるようなクヌギ等の樹木が少ないので植樹	
環境	多	してください。	
	様性	長浜の公園内の池には、鴨、鷺は飛来します	
響評		が雁(上空を列になって飛んでいるが下りてこ	
影響評価項目		ない)、白鳥が飛来するような池の設置をお願	
目		いします。	
		川蝉も長浜水路で見かけることが少なくな	
		った。子育てができるような土手を造り穴が掘	
		れるようにしていつも見られるような工夫も	
		お願いします。	
		狸子狸が現在西柴の森と長浜の公園の周り	
		の道を横断している。交通事故に遭っているの	
		でこれ以上事故にならないような自然環境の	
		工夫を考えてください。	
		多目的レクリエーション広場と住宅が近い	今後、多目的レクリエーション広場の設
	騒	ため、住宅と隣接している部分の壁は高くして	計を進める中で、隣接する住宅に対する騒
	音	いただきたい。	音やプライバシーへの影響等を考慮し、広
		(壁に防音効果があると尚可)	場の規模や配置を検討します。

第2期自然環境保全エリア整備について住 宅地隣接傾斜地対策を要望します。

◎必要性

近年の自然災害の報道は予測を超えて発生している。

防災の視点での整備の重要性が求められて いる。

◎危険性を感じる理由

土砂災害警戒区域に指定されている。

高く急な斜面が住宅地に隣接している。

斜面補強のコンクリートも古くなり、手入れ もされていない。

(50年以上経過しており老朽化している。また、コンクリートの間から樹木が育っている。)

過去、傾斜地は大手不動産会社が所有しており、手入れもされていた。

現在は個人所有の形態となり、手入れもされず大木が育ってしまっている傾斜地が多くなっている。

米軍利用時(防衛施設庁管理地域)は、境界 線内数メートルは樹木を伐採していた。従って 樹木が住宅地に張り出す心配もなかった。

昨年10月の台風19号の際、大木の枝が折れており、不安になったので、現在管理下にある財務省(横浜財務事務所)に伐採を依頼したところ緊急性はなく、予算的なこともあり、難しいとの話があった。

このまま傾斜地を残したまま自然環境保全 エリアを整備して万一大雨、地震等で傾斜地が 崩れた場合、人災の感は免れなくなってしまう のではないかと思われます。

よって、対策として近隣住民に安心感を与える高さまで傾斜地を削り取り、植樹も低木中心とすることで近隣住民への威圧感をなくす等の対策を要望します。

◎過去の発生事案

数年前に大雨で一部樹木ごと住宅地と反対 側であったが崩れている事案がある。

隣接する全地域を点検していただき住宅地

公園整備にあたっては、既存の地形や樹林地などを極力活かしながら、施設整備、タンク処理、バリアフリー動線の確保など、公園利用に必要な最小限の範囲で造成を行います。

計画地内の旧海岸線の崖地は、崖地特有の植物群落が生育する貴重な場所であるため保全に努めます。なお、整備にあたっては崖地の安全性を確認し、供用時の利用者の安全確保にも十分配慮します。

また、住宅地に隣接する崖地についても、 現在の地形や自然環境の保全を基本としな がら、安全性を確認し、必要に応じて安全 対策について検討を行います。

なお、公園公開後は樹林地の良好な保全、 育成に向けた維持管理を実施します。 影響評価項目

には水が流出しないよう設計施工していただきたいと思います。

大型地震予測では、横浜市が一番確率が高い 数値が出されています。

傾斜地対策として公園整備と併せて安全性を高める工事を実施して頂きたいと思います。 隣接地のシーサイドファームは災害が起こった際、避難地として活用されると聞きおよんでおります。このような広い地域があるわけですので、これからは自然保全のみにとらわれることなく、避難場所にも活用できる設計を望み

ます。

西柴の東側の崖が台風や大雨で度々崩落しているので、自然を残した方法でコンクリート等の不自然な方法でなく自然に見えるような工事をお願いします。

公園がやむなく進むようだったら、せめて崖 下には人が入らぬようにし、崖をそのままにし てほしい。

津波避難場所として里山エリアの高台の一部を早い時期(第1期から)整備していただきたい。

津波からの避難場所としての利用に関しては、災害発生時の避難場所としての防災計画上の位置付けや導入する防災機能を含めて検討します。

公園整備にあたっては、工事の円滑な実施や利用者の安全を考慮して工事エリアを設定しており、整備が完了したエリアから順次供用を開始します。